

心の軌跡

東大阪市立縄手中学校
＜道德通信＞第3号
2021年12月23日（木）

2学期の道德の授業を振り返ってみよう！

今日の道德は2学期の道德の授業を振り返る時間です。2学期に行った全14回の道德の中から、あなたの「**心に深く残った**」道德の授業を思い出し、その授業であなたが感じたことを書いてください。振り返りをして、3学期からの道德の授業、そして今後の生活につなげていきましょう。



～1年生～ 授業の様子「ふれあい直売所」

主題＜社会のきまり＞

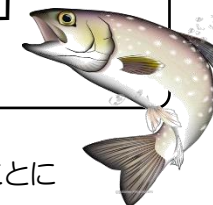
無人の直売所を営む「私」と直売所を利用する親子の会話から、きまりやマナーを守ることが「よりよい社会を作る」ことにどうつながっていくのか考えました。

～感想～

- ・きまりを守っていると、直売所の人も野菜を買いに来る人もいい気持ちになれるからいいなと思った。お金を払わないで野菜を持っていく人にこの親子の会話を聞かせたい。**自分は決まりをしっかり守っていこう**と思いました。
- ・野菜を買う人と農家の信頼関係ができていれば、直売所も成り立つし、**どんどん良い町になっていく**と思いました。ルールを守らないことは簡単だけど、ルールを守らないいろいろなものがなくなっていってしまうと思いました。
- ・人を疑う気持ちより、信頼する気持ち、社会的ルールを守ることがとても大切だなと思いました。
- ・社会のきまりを守ること**で信頼関係が生まれたり、関係がよくなっていく**とわかりました。ふれあい直売所のふれあいは、たくさんの地域の人とふれあい仲良くなるためかなと思いました。

～2年生～ 授業の様子「オーストラリアのマス川」

主題＜規則を守る＞



釣りをしていた「僕」がマス釣った後に、解禁日（釣っていい日）の1日前だということに気づき、リリース（放流）するか悩む、というところから、規則を守ることについて考えました。

～感想～

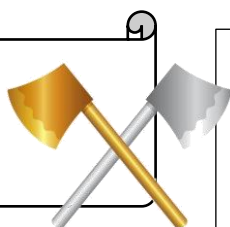
- ・自分も似たような経験があるので、「僕」の気持ちはよくわかる。「気づかなければ…。」と思ったことが何度かある。でも罪悪感にさいなまれ続けるくらいならルールを守るほうがいい。
- ・ルールをやぶる罪悪感っていうのは、ものすごく大きいと思います。みんなのためにもルールを守ることは、とても大切だなと思いました。
- ・ルールを守るのは自分のためでもあると思った。（マス釣ったときは、「持って帰ってばれへんかったらラッキー」と思っても、よく考えたら罪悪感とかあっていやだと思った。
- ・僕だったらついつい取ってしまいそうなので、「僕」はとてもすごいんだなと思った。僕の学校生活、少しのささいなことでもこのようなことにつながってくと思うので、ルールをちゃんと守れているかももう一度自分で確かめてみようと思います。
- ・今日の物語の内容のように私情を捨てて、正解を選ぶことはとても難しいけど、その選択をできる人が増えたら、問題も減るだろうと思った。
- ・今回の授業を受けて、ルールを守めることは自然のため人のためにやるというだけでなく、自分が気持ちよくなれると分かった。

保護者の方へ

2学期は全部で14回、道德の授業を行いました。子どもたちの柔軟な発想に私たちも授業をしていて驚かされることがたくさんあります。保護者のみなさまもぜひお子さんと道德の授業の内容を、たくさんお話しただけたらと思います。

～3年生～ 授業の様子「3人目の男～「金の斧」その後」

主題＜誠実＞



童話「金の斧」のお話の後に、二人の様子を見ていた3人目の男があらわれたら…、という想像から、「誠実に生きる」とはどういうことかを考えました。

～感想～

- ・だれにでも、どこでも、いつでも、素直にいれる人はすてき。自分に正直に生きることが大切。
- ・自分のためにウソをついてしまったら、ダメやなって思った。正直で誠実な人のほうが絶対いろんなことで、良いと思った。
- ・自分の欲に負けてうそをついたり、人の失敗を利用して他人の幸せをうばうのではなくて、自分の気持ちに正直になれる誠実な人になりたい。
- ・誠実な人はいい人で、誰にでも好かれるんやろなと思った。
- ・考え方を換えれば、3人とも誠実と思える中で、私は1人目と2人目が誠実だと思った。自分の本当に思っていることを相手に伝えることができる人が誠実だと思いました。もし、嘘で本心にかくされたら悲しいなあ。と思ったからです。
- ・誠実とは、自分の利益のために行動するのではなく相手を思って行動できること。誠実なことはとても大切やと思うけど、時にはずる賢いことも必要やと思う。ずる賢いのも人間らしくて良い。

～全学年～ 授業の様子「トマトとメロン」

主題＜自分らしく生きる＞

12/17(金)は他学年の先生が授業を行うシャッフル授業をしました。関わりの少ない先生だからこそ新鮮な気持ちで授業に向かえたのではないでしょう。

教材は「トマトとメロン」、相田みつをさんの詩です。お互いを比べることなく精一杯生きる野菜から自分らしく生きるとはどういうことかを考えました。

～感想～

- ・トマトとメロンに当てはめたら、なんとなく自分と相手を比べていたなと気付けるようになった気がしました。(1年)
- ・人が自分の都合で勝手につけたイメージにとらわれていては、片方の良さを見落としてしまうなと思いました。(1年)
- ・それぞれの良さがありました。誰かは嫌いでも誰かは好きなので自分らしく生きるのが大切と分かりました。(1年)
- ・自分の考えを押しつけたりせず、それぞれに生きたいように生きられるようになったらいいと思った。(2年)
- ・個人個人でできることや苦手なことがあり、それをお互いにカバーしあえばよい社会になるかもしれない。(2年)
- ・あの子ができて、自分ができないことがあって、恥ずかしくても胸をはってやろうと思った。自分にしかできないことを見つけて、見つけたものを一生懸命にしようと思った。(2年)
- ・自分の個性を大切にすることも大切やし、その個性って他人にどうこう言われる筋合いもないと思うし、自分らしく生きていくべきだなと思いました。
- ・自分の個性って言っても、自分じゃよく分らんと思う。皆と仲良くなってその仲間に聞いた個性こそが本当の自分の個性だと思う。(3年)
- ・自分の生き方と人の生き方を比べなくても、自分なりに後悔のないように生きたら本当にいいんだなと改めて思いました。(3年)
- ・自分が一番上の順位でも満足できないときはできないし、一番下でも納得できるときはあるし、結局周りの目は関係なくて、自分自身なんだと思った。自分を貫くことが大事なんだと思う。(3年)

